

風疹は「三日ばしか」とも呼ばれ、その別名のとおりの症状は軽めです。風疹に感染すると約 2～3 週間後に発熱や発疹、リンパ節の腫れなどの症状が現れます。子どもでは症状は比較的軽いのですが、大人がかかると発熱や発疹の期間が長く、関節痛など症状がひどいことが多いとされています。まれに脳炎や血小板減少性紫斑病などの合併症が、2,000 人～5,000 人に 1 人くらいの割合で発生します。特に問題となるのは、妊娠 20 週頃までの妊婦が感染すると眼や心臓、耳等に障害をもつ子どもが生まれることがあります（先天性風疹症候群）、この時期の感染は避けなければなりません。妊娠 1 か月でかかった場合 50%以上、妊娠 2 か月の場合は 35%が先天性風疹症候群になると言われています。



風疹ウイルスは麻疹のように空気感染ではありませんが、その感染力はインフルエンザの 2～4 倍と言われており、非常に強力です。かからないようにするには予防接種が有効であり、ワクチン接種によって 95%以上の人々が免疫を獲得することができ、2 回接種を受ければ 1 回の接種では免疫がつかなかった人にも免疫をつけることができます。平成 2 年 4 月 2 日以降に生まれた男女は、2 回の予防接種を受けられるようになりましたが、それより年齢が上の人には受けていても 1 回だけで、十分な免疫がついていない可能性があります。生年月日と予防接種の状況を下に示します。予防接種が該当していても受けなかった場合もありますので、母子手帳が残っていれば自分が予防接種を受けたかどうか確認してみてください。

昭和 37 年 4 月 1 日以前生まれ	予防接種なし
昭和 54 年 4 月 1 日以前生まれ	女性のみ中学生の時に学校で 1 回集団接種
昭和 62 年 10 月 1 日以前生まれ	男女とも中学生の時に 1 回接種対象になったが個別接種だったので接種率が低い
平成 2 年 4 月 1 日以前生まれ	男女とも幼児期に 1 回接種となり接種率は高い
平成 2 年 4 月 2 日以降生まれ	男女とも幼児期に 2 回接種となり接種率は高い

自然感染でも免疫はできますが、自分では風疹にかかったことがあると思っていても、別の病気だったのを勘違いしている可能性もあります。記憶があいまいな場合は、採血による抗体検査を受けてみましょう。

最上町では 22 歳以上の妊娠を希望する女性と夫、同居家族の方は、無料で風疹の抗体検査を受けることができます。先に健康センターで手続きが必要です。また抗体価が十分でなかった場合は、予防接種の費用が 5,000 円補助され、麻疹・風疹ワクチンを 4,720 円で受けることができます。(2019 年 2 月現在)

妊娠出産年齢の女性が風疹のワクチンの接種をうける場合には、妊娠していない時期（2 か月以上前）に接種を行い、その後 2 か月間の避妊が必要です。妊娠中は予防接種を受けることはできません。

夫が風疹にかかって妊娠中の妻に風疹をうつしてしまうと、その赤ちゃんは先天性風疹症候群となって生まれる可能性があります。風疹の予防接種を受けたことがない場合や抗体価が低い場合は男性も予防接種をうけるようにして下さい。妻がすでに妊娠している場合でも、風疹の予防接種を受けて大丈夫です。ワクチンのウイルスが周囲の人に感染したという報告はこれまでになく、厚生労働省でも積極的な接種を推奨しています。

### 麻疹と風疹の抗体価の判定

	抗体価陰性	抗体価陽性 (基準を満たさない)	抗体価陽性 (基準を満たす)
麻疹	EIA 法：2.0 未満	EIA 法：2.0～15.9	EIA 法：16.0 以上
風疹	EIA 法：2.0 未満 HI 法：8 倍未満	EIA 法：2.0～7.9 HI 法：8 倍、16 倍	EIA 法：8.0 以上 HI 法：32 倍以上
予防接種	接種が必要		不要

## 編集後記

院長 永井俊一

私は小さい頃に麻疹に感染したようですが、自分では覚えていません。風疹は医師になって 3 年目にかかりました。全身に赤いブツブツが出てものすごくかゆくて、熱も高くて、目まで真っ赤になってかゆくて、自分では診断できなかったため何がおこっているかわからず、死んじゃうんじゃないかと思ってしまいました。3 日ばしかとは言われますが、大人だったので 1 週間以上休まざるをえませんでした。自分で一度経験すると忘れません。でも小児科が専門ではなかったので、医師になってから今まで麻疹は一度も診たことがないんです。麻疹の流行がニュースになっているので、自分の頭の中を整理するためにまとめてみました。